

【 復活讃詞 第7調 】

ハリスト スか み よ 、 なんぢは じゅうじ か に て し を
 神 爾 十 字 架 死
 ほ ろ ぼ し 、 と う ぞ く の た め に ら く え ん を ひ
 滅 盗 賊 爲 樂 園 開
 ら き 、 け い こ う ぢ ゃ の か な し み を な ぐ さ
 攜 香 女 悲 慰
 め 、 し と に なんぢが ふ く か つ して 、 せ か 界
 使 徒 爾 復 活 世 界
 い に お お い な る あ わ れ み を た ま い し を つ た え
 大 憐 賜 傳
 さ せ た ま え り 。

【 日本の聖使徒ニコライの讃詞 第4調 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今
 い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 何 時 世 世
 し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゆ う
 使 徒 等 同 座 者 忠
 じ つ に し て し ん ち な る ハ リ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い
 實 神 智 役 者 聖
 な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ リ ス ト ス の あ い
 神 撰 笛 愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う
 満 器 我 國 光

し ょ お し ゃ 、 あ し と し ゆ き よ う せ い ニ コ ラ イ
 照 お 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ 、 な ん ぢ の ぼ く ぐ ん の た あ め 、 お よ び
 爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い
 全 世 界 の 爲 生 命 賜 聖

さん しゃ に い の り た ま え 。
 三 者 祈 給

司祭) (黙誦： 聖なる神、 聖者の中に息い、 セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讚榮せられ、 悉くの天軍より伏拝せられ、 萬物を無より有と
 なし、 人を爾の像と肖とに依りて造り、 爾が諸の賜を以て之を飾り、
 願う者に智慧と明悟とを與え、 罪を行ふ者を棄てずして、 其救の爲に痛悔
 を立て、 我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、 此の時に於ても、 爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、 爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、 爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、 爾の仁慈を
 以て我等に臨み、 我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、 我が靈と體と
 を聖にし、 我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、 聖なる
 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、 爾は聖なり、 我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、 今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖

じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 殺 聖 常 生 者 我 等 を
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 提綱 (プロキメン) 主日第7調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。
 爾 神

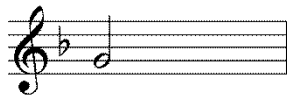
司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主は其民に力を賜い、主は其民に平安の福を降さん、

しゅ は その たみにちからをたま い、しゅ は
 主 其 民 力 賜 主
 その たみにへいあんのふくをくくだ
 其 民 平 安 福 降
 さん。

誦經) 神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

しゅ は その たみにちからをたま い、しゅ は
 主 其 民 力 賜 主
 その たみにへいあんのふくをくくだ
 其 民 平 安 福 降



さん。

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま} 主は其民に力を賜い、



しゅはそのたみにへいあんのふくをく降
主其民平安の福をく降



ださん。

【 使徒經 (アポストロス) 124 端 コリント前書1章10節~18節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ ぜんしよ よみ} 聖使徒パウエルがコリント人に達する前書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい われら しゅ な よ われなんぢら もと なんぢらみない ところ} 兄弟よ、我等の主イイス・ハリストスの名に由りて、我爾等に求む、爾等皆言う所

^{おな かつなんぢら うち わかれ すなわちなんぢらこころ かつ おもい かつ あいあ} を同じくし、且爾等の中に分争なく、乃爾等心を一にし、意を一にして相合う

^{けだしわ けいてい なんぢら つ かじん われ なんぢら うち あらそい} べし。蓋我が兄弟よ、爾等に就きて、ハロヤの家人より、我に爾等の中に争のあ

^{つ わ い ところ すなわちなんぢらおのおい われ ぞく} ることを告げられたり。我が言う所は、即爾等各言えるあり、我はパウエルに屬す、

^{われ ぞく われ ぞく われ ぞく あに わか} 我はアポロロスに屬す、我はキファに屬す、我はハリストスに屬すと。豈ハリストスは分れ

^{あに なんぢら ため じゅうじか てい そもそもなんぢら な よ} しか、豈パウエルは爾等の爲に十字架に釘せられしか、抑爾等はパウエルの名に藉り

^{せん う かみ かんしや われ およ ほか なんぢら うちだれ せん さづ} て洗を受けしか。神に感謝す、我はクリスプ及びガイの外、爾等の中誰にも洗を受け

^{ひとあるい われ わ な よ さづ い ため われまた} しことなし、人或は、我は我が名に藉りて授けたりと言わざらん爲なり。我亦ステファン

^{いえ せん さづ こ ほかなんびと さづ いな し けだし われ つかわ} の家に洗を受けたり、此の外何人に授けたりや否やを知らず。蓋ハリストスの我を遣

^{せん さづ ため あら すなわちふくいん つた ため またことば ちえ もち} ししは、洗を受けん爲に非ず、乃福音を傳えん爲なり、又言の智慧を用いしめず、

^{じゅうじか むな ため けだしじゅうじか ことば ほろ もの ため} ハリストスの十字架の虚しくならざらん爲なり。蓋十字架の言は、滅ぶる者の爲に

^{ぐ われらすく もの ため かみ ちから} は愚なり、我等救わるる者の爲には神の能なり。

(比較用 口語訳)

さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにし、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。はっきり言うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケパに」「わたしはキリストに」と言い合っていることである。キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。わたしは感謝しているが、クリスポとガイオ以外には、あなたがたのうちのだれにも、バプテスマを授けたことがない。それはあなたがたがわたしの名によってバプテスマを受けたのだと、だれにも言われることのないためである。もっとも、ステパナの家の者たちには、バプテスマを授けたことがある。しかし、そのほかには、だれにも授けた覚えがない。いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いずに宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

司祭) ^{なんぢ} 爾 ^{へいあん} に平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しん} の神にも、ア ril イヤ、

【 ア ril イヤ 主日第7調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

ア ril イヤ、ア ril イヤ、

ア ril イヤ。

誦經) ^{しじょうしゃ} 至上者よ、^{しゅ} 主を^{さんえい} 讚榮し、^{なんぢ} 爾 ^な の名に^{うた} 歌 ^び うは^{かな} 美なる哉、

ア ril イヤ、ア ril イヤ、

ア ril イヤ。

誦經) ^{なんぢ あわれみ あさの なんぢ まこと よの び かな} 爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ ころろ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主 宰よ、我が心に神を知る智慧の 浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる 誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる 畏をも入れて、我等が 悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が 靈と體との光 照なり、我等 爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を 施す 爾の神とに光 榮を獻ず、今も何時も 世に、アミン。)

【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 58 端 14 章 14~22 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、 肅みて立て聖福音經を聴くべし、 衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き} 謹みて聴くべし、

司祭) ^{か とし い ぐんしゅう み これ あわれ そのや もの いや ひくれ} 彼の時 イスス出でて、群衆を見て、之を憫み、其病める者を醫せり。日暮るるに

^{およ もんとかれ つ い ここ の ところ としすで おそ たみ さ かれら} 及びて、門徒彼に就きて曰えり、此は野の處にして、時已に晩し、民を去らしめよ、彼等が

しよそん ゆ おのれ ため しょく か ため しか かれら い そのゆ よう
諸村に往きて、己の爲に食を市わん爲なり。然れどもイイス彼等に謂えり、其往くを要

せぜ なんぢらこれ しょく あた かれらいわ われら ここ ただいつつ パン ふたつ うお
せず、爾等之に食を與えよ。彼等曰く、我等には此に唯五の餅と二の魚とあるのみ。

かれい これ ここ われ たづさ きた すなわちたみ めい くさ うえ ざ ひとつ パン ふたつ
彼曰えり、之を此に我に攜え來れ。乃民に命じて、草の上に坐せしめ、五の餅と二

うお と てん あお しゆくふく パン さ これ もんと あた もんとたみ あた
の魚とを取りて、天を仰ぎて祝福し、餅を擘きて、之を門徒に與え、門徒民に與えたり。

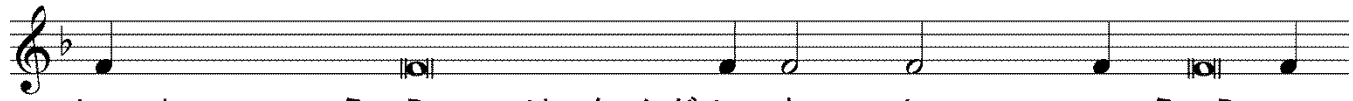
みなくら あ そのあま くづ ひろ じゅうに かご み くら もの おんな こども
皆食いて飽き、其餘りたる屑を拾いて、十二の筐に盈てたり。食いし者は、婦と幼童と

ほか およそ せんにん ただち そのもんと うなが ふね のぼ みづか たみ さ
の外、約五千人なりき。イイス直に其門徒を促して、舟に登らしめ、自ら民を去ら

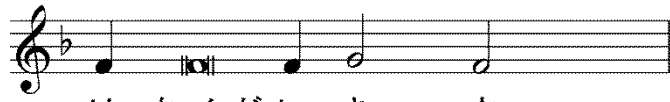
あいだ おのれ さき か きし ゆ
しむる間に、己に先だちて、彼の岸に往かしめたり。

(比較用 口語訳)

イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。夕方になったので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。イエスは言われた、「それをここに持ってきなさい」。そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。それからすぐ、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸 す。